

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-60	高等学校	家 庭	子どもの 発達と保育	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※ 教 科 書 名		
7 実教	家庭 311	子どもの発達と保育 新訂版		

1. 編修の基本方針

- (1) 乳幼児の発育・発達や保育原理など、保育に関する知識と技術が身につけられることを基本においた。
- (2) 各節の冒頭に「学習のねらい」にあたる内容を示し、学習の動機づけをはかった。
- (3) 乳幼児と接する機会の少ない現代の生徒が、乳幼児のイメージをとらえやすいようにイラストや写真を豊富に掲載した。
- (4) 生徒の興味・関心を喚起できるよう、学習内容と関連した実践活動や話題を適宜挿入した。

2. 対照表

教育基本法第二条の各号の目標を達成するため、それぞれ以下の点を基本方針とし、本書を編修した。

教育基本法第二条	特に意を用いた点や特色
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	・学習指導要領にそって、高校生が学ぶべき基礎・基本の内容を本文で扱い、さらに補足的な内容や解説などは側注やかこみを利用し、幅広い内容を取り上げた。 ・日常的な挨拶や、交通ルールなどの社会的な規範を子どもの頃から身に付ける意義などを説明した。 ・食事・栄養、病気・事故予防などについて、具体的に扱った。
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	・出生から就学前までの自立に向けた内容について網羅的に扱い、人間としての成長に必要な諸条件・環境要因が理解できるようにした。 ・保育所や幼稚園など集団保育実習のページを設け、子どもに関わる職業についてのイメージを持つことができるようにした。
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	・性別役割分業を見直す観点から、男女が共に職業生活や家庭生活、地域生活にバランスよく参画することができるような社会的支援のあり方を示した。 ・大人と子どもの関係において愛着関係が重要であり、その関係を通して自己受容・自己信頼感が育まれることを扱った。 ・社会的生活習慣として、交通上のルールや社会的なマナーなどを身につけるために、周囲の人間による行動規範が大切であることを説明した。

第4号 生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	・まえがきでは、生命を尊重し子どもとのかかわりの中で自身も成長していくことを説明した。 ・現代の遊びの特徴として、屋外での遊びが減っていることを取り上げ、子どもの成長への影響を指摘した。
第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	・子どもの遊びの具体例として折り紙・あやとり、伝承遊びなどをあげ、古くから親しまれてきた遊びが現在にも引き継がれていることを示した。 ・育児休業制度は日本の他、外国の例もあげることで世界的な動向が理解できるようにした。

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

○本書の特徴

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
かこみ Close up	全章を通じて、随所に「かこみ」を設けたり、各章末に「Close up」として章末を設けることで学習内容を掘り下げたり、広げたりすることができるようにした（第1号）。	p. 31、p. 78、 p. 18、p. 54、 p. 100、p. 122、 p. 141など
巻頭・巻末ページ	新生児の写真を掲載することによって、生命の大切さが視覚的に伝わるよう工夫した（第4号）。 保育士や子育てに関わるNPO法人へのインタビューによって、仕事への思いが具体的に伝わるように工夫し、さらにこれら以外の子どもに関わる職業を写真とともに紹介した（第2号）。	巻頭ページ1・2 巻末ページ4・5・6
Activity	単に知識の羅列にとどまらず、実践的な活動テーマを示すことによって知識の定着を目指した（第1号）。	p. 60、p. 64～65、 p. 80～81など
Topics	身近な話題や社会で話題になっている事柄を取り上げることで、社会への関心を促し、社会を形成する一員としてその背景や解決方法を考察するきっかけとした（第3号）。	p. 13、p. 23、p. 35 など

○各章の特徴

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
1章 子どもの発達の特徴	・人として発達していくためには、どのような要素が必要かを概観できるように、発達の特徴や保育環境の重要性を扱った（第1号）。 ・児童観の変遷においては、日本だけでなく諸外国の例についても取り扱った（第5号）。 ・章末で「子どものお祝いごと」を取り上げ、暮らしに定着している伝統行事について理解が深まるよう工夫をした（第5号）。	p. 8～13 p. 14～17 p. 18

2章 子どもの発達過程	・胎児に及ぼす悪影響や妊娠中の注意事項を丁寧に扱うことによって、生命を守るためには細やかな配慮が必要であることが学習できるようにした（第4号）。 ・子どもの精神発達を具体的な図を用いながら説明し、健やかに育つために必要なことが理解できるよう工夫した（第1号）。 ・第一反抗期・中間反抗期など自我の確立に向けた成長過程とその時期の関わり方を示すことで自立・自律への理解が深まるよう配慮した（第2号）。	p. 22～23 p. 36～45 p. 52～53
3章 子どもの生活	・子どもの生活リズム・食生活・衣生活などについて具体的に取り扱い、健やかに成長するための保育方法が具体的に習得できるようにした（第1号）。 ・現代の遊びの特徴として屋内遊びの増加に触れ、子どもの成長と自然との関わりについて考察できるよう配慮した（第4号）。	p. 56～75 p. 76～83
4章 子どもの保育	・家庭保育だけでなく、集団保育についても触れ、集団の中でこそ促される面があることを具体的に説明した（第3号）。 ・保育者の役割や集団保育での1日の様子を写真で視覚的に構成し、職業としてのイメージが伝わりやすいよう工夫した（第2号）。	p. 110～113 p. 114～121
5章 子どもの福祉	・児童福祉に関わる法律や制度について理解を深めるとともに、現代の社会的支援の課題や現在の動向を知ること、高校卒業後に社会の一員として参画する自覚をながせるよう配慮した（第3号）。	p. 124～139

学校教育法第五十一条の各目標を達成するため、以下の点に留意し、本書を編修した。

学校教育法第五十一条	
一 義務教育として行われる普通教育の成果をさらに発展拡充させて、豊かな人間性、創造性及び健やかな身体を養い、国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと。	中学校における学習内容を踏まえ、丁寧な記述、平易な文章表現、豊富なイラスト・写真などを盛り込んで、内容的な理解が深まるよう配慮をした。また、子ども・子育ては社会全体で取り組む必要性を盛り込んだ。
二 社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき、個性に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること。	専門科目として保育における知識を網羅し、関連する技術的な内容を、Activity などの実践活動を通して習得できるよう構成した。また、保育所訪問実習を想定した内容を取り上げ、実際に子どもと関わる仕事を具体的に紹介することで、将来の進路について具体的に検討できるよう配慮した。
三 個性の確立に努めるとともに、社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと。	子ども・子育てに関わる社会的状況や社会的支援が抱える課題についても具体的に触れ、今後社会の構成員としてどのような課題解決の方向があるのか、考えられるようにした。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-60	高等学校	家 庭	子どもの 発達と保育	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※ 教 科 書 名		
7 実教	家庭 311	子どもの発達と保育 新訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

幼児の発達と保育に関する基礎的な知識と実践的内容が身につくよう、以下の点に配慮した。

- ・節冒頭部分に生徒の関心を喚起させる導入部分を設け、その節の学習内容を理解しやすいようにした。
- ・かこみ部分や各章末では、保育の課題や保育に関する身近な話題などを紹介し、学習内容について実社会や実生活と関連づけて考えられるようにした。
- ・各所に学習内容と関連した実践活動「Activity」を置き、保育に関する実践的内容が身につけられるようにした。

○1章 子どもの発達の特徴

- (1) 乳幼児期は人間形成などの点から重要な意味を持っており、この時期の保育が大切であることを示した。
- (2) 乳児期と幼児期のそれぞれの特徴を、概略的に扱った。

○2章 子どもの発達の過程

- (1) 胎児の発育状況は出生後の健康にも大きく関わることから、妊娠期における親の生活上の注意や胎児期の発育などを学べるようにした。
- (2) 身体的特徴や生理的特徴については、図やイラストでわかりやすく説明しながら、それぞれの特徴が理解できるようにした。
- (3) 子どもの精神発達には、運動・感覚機能、知能、言葉、情緒などの発達があることを示し、それぞれの特徴を示した。

○3章 子どもの生活

- (1) 栄養と食事の項では、母乳栄養と人工栄養について扱い、それぞれの特徴が理解できるようにした。また、実践活動として離乳食や幼児食作りを取り扱い、子どもの食事への理解が深められるようにした。
- (2) 子どもの生活には遊びが不可欠であることから、遊びの分類や意義について説明し、実践活動として子どもの遊び道具作りを取り扱った。
- (3) 病気の項では、病気の早期発見ができるよう、日常生活における注意点やよく見られる症状などを示すとともに、その予防として定期健康診査の受診や予防接種があることを示した。
- (4) 安全については、子どもにとっての危険として主に交通事故やその他の家庭内外の事故などがあることを示し、どのような状況が危険につながるのかと共に、事故防止のために大人が果たす役割などについて説明した。

○4章 子どもの保育

- (1) 子どもとの接し方や指導方法など保育者に求められる子どもとの関わり方について具体的に説明した。
- (2) 家庭保育と集団保育について、その基本的な役割を扱い、それぞれが子どもの心身発達にどのような役割を果たすのかを記述した。また、単に役割だけにとどまらず、それぞれが抱える問題点、課題などについても取り扱った。
- (3) 保育環境の変化について統計などの資料を用いて具体的に取り上げ、現代の保育環境の特徴について理解できるようにした。

○5章 子どもの福祉

- (1) 児童福祉がどのように保障され、それが子どもや子どもを取り巻く人々の生活にどのように関わるのかを説明することによって、児童福祉の意義を理解できるようにした。
- (2) 児童福祉法などの法律や児童福祉のための機関や施設について、より理解を深められるよう具体的に扱った。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	配当時間	箇所
1章1節 発達と乳幼児期の意義	(1) ア	1	p. 8～11
1章2節 発達と保育環境	(1) イ	1	p. 12～13
1章3節 児童観と発達観	(1) ウ	1	p. 14～17
2章1節 子どもの発育	(2) ア	8	p. 20～35
2章2節 子どもの精神発達	(2) イ、ウ	4	p. 36～45
2章3節 人間関係の発達	(2) エ	3	p. 46～53
3章1節 生活と養護	(3) ア、イ	10	p. 56～75
3章2節 子どもの遊び	(3) ア	5	p. 76～83
3章3節 生活習慣の形成	(3) イ	3	p. 84～91
3章4節 健康管理と事故防止	(3) ウ	5	p. 92～99
4章1節 保育の意義と重要性	(4) ア、イ、ウ	2	p. 102～107
4章2節 家庭保育と集団保育	(4) ア、イ、ウ	3	p. 108～113
4章3節 保育の方法	(4) イ	8	p. 114～121
5章1節 子どもの福祉	(5) ア	3	p. 124～129
5章2節 子育て支援	(5) イ	3	p. 130～140
		計	60